

諸行無常

株式会社 帝国設計事務所 / 技術第2部 / 次長 荒木 将



1. はじめに

自分はそもそも“ベテラン”であるのかという問いから検索するとベテランとは、『英語では「veteran」を「退役軍人」「古参兵」で使うことが多く、日本では「経験が豊富な人」又は「熟練者」で使われている』とのことだった。定量的な判断基準はと思い、ベテランとは何年目と検索すると、『一般的に社会人として働き始めて3年以上すると「中堅」、10年前後になると「ベテラン」と呼ばれる』とあった。1995（平成7）年入社で2026（令和8）年現在で30年が経過。「ベテラン」を受け入れ、執筆をはじめた。

2. 社会人1年生を振り返る

私は主に水道事業関連に従事してきた技術者である。令和8年度から社会人1年生となる息子がいるので、当時を振り返ることにする。学生時代は北海道を離れていたこともあり、道内の地理・地名が分からなかった。さらに北海道の地名はアイヌ語から由来しているものが多い。（クイズ難読地名：花畔・濃昼・国縫・馬主来・大楽毛等々）

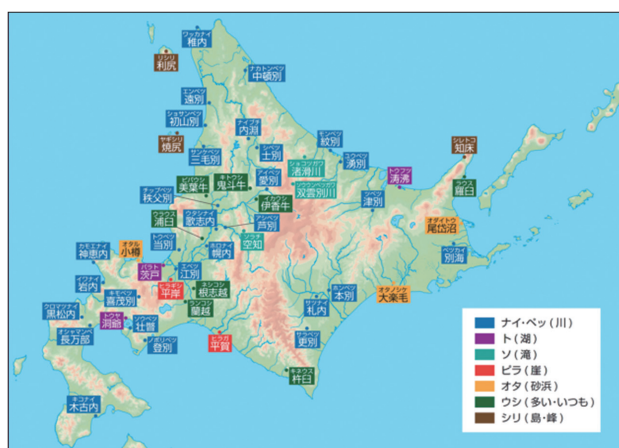


図-1 (北海道内難読地名マップ)

加えて、水道用語等について全く不案内であった。弁篋・盲フランジ・鑄鉄・異形管・赤水・占用等々。意味不明の用語に翻弄され、意思の疎通及び業務遂行とはかけ離れた状況であった。その当時はネット検索もなく、

先輩方の時間泥棒な新入社員であった。若さしかない自分であったこと改めて思い出す。そんな自分を先輩方は、相当数飲み連れに出してくれた。もちろん覚えていないが、総費用を考えると費用対効果があったかどうかは疑わしい。

3. 業務を振り返る

本執筆を機会に、携わってきた業務の一部を棚卸ししてみた。下記の(1)～(4)の作成にあたっては対象となる市町村の地形図(50,000分の1)に給水区域等を明示するため、色鉛筆で着色しなければならなかった(カラーキャナー等が無いころ)。提出部数は3部であるが、発注者控と受注者控を含めると5部程度。国庫補助事業関連の提出時期は北海道を通じて各市町村に連絡が入り、複数の市町村から同時期に依頼がくるため、相当数の地図作成をしなければならなかった。

下記の(5)～(9)は、施設の実施設設計である。(5)管路の詳細設計では管路自体の完成形を見ることは少ないが、仕切弁や消火栓等の一部は目で確認でき嬉しかったことを思い出す。

(6)～(9)は“見える”ものばかりである。築造された施設を見ると達成感を感じることもあったが、同時にミスもわかりやすく確認できる。このため発注者・施工業者からのクレーム対応や事後対応に苦慮した記憶がある。

(10)は水道事業体の更新需要の算定や財政収支見通し算定のための基礎データとして水道台帳を既存施設設計図書(設計図・工事設計書)用いて作成するものである。

以上列記された項目について、水道事業の関係者として多岐にわたる機会に恵まれたと、今になっては思える。

ただ、各業務の最中にあるとき、いまと同じ思いをもっていたわけではない。時間の経過とともに業務に対する向き合い方やとらえ方が変わっていったのだと思う。

(1) 占用申請書(河川・道路)の作成

占用とは特定の目的のために公共の場所を独占的かつ継続的に使用すること。水道施設が河川や道路内を通過及びその変更をする場合に許可を得る申請書の作成。

(2) 水道施設整備費国庫補助事業関連図書作成

概算要望書の作成(補助事業の前年度の5月)、本要望

書の作成（補助事業の前年度の10月）、交付申請書の作成（補助事業の実施年度の5月）、中間検査・竣工検査（補助事業の実施年度の9～2月）、実績報告書の作成。以上について水道事業体等と共同して作成・提出。

（3）水道事業認可申請

水道法7条を抜粋『水道事業者は申請書の記載事項に変更を生じたときは、その旨を国土交通大臣に届け出なければならない。1）給水区域に拡張2）給水対象の増加3）給水人口の増加4）給水量の増加5）水源種別の変更6）取水地点の変更7）浄水方法の変更等』が1）～7）に該当する場合申請する。

（4）災害復旧事業計画書の策定

1）復旧事業計画書 2）設計書 3）水道事業調書 4）被災状況調査書 5）災害原因となったものの記録を証明する書類 6）採用工法の妥当性が問題となる場合、それを立証できる調査書類 7）図面を作成し、復旧費用の全部または一部が国によって負担・補助される。

（5）管路詳細の設計

導水管・送水管・配水管・給水管の布設替工事のための実施設計

（6）水道施設（浄水場・配水池）設計

高濁度（表流水）対策の一環としての配水池及び浄水場の改築実施設計

（7）既設浄水場の機械・電気設備更新設計

経年劣化による機器更新と監視方法変更を目的とした電気計装設備の更新設計

（8）営農用水施設の設計

不良取水対策としての頭首工の改築実施設計

（9）緊急貯水槽の新設設計

地域防災計画に基づく飲料水確保のため応急給水拠点施設（緊急貯水槽）新設工事に向けての実実施設計

（10）水道施設の資産台帳整理業務

公営企業会計において作成する財務諸表を整理するための資産台帳作成業務

4. 体調管理から新たな挑戦

40歳を過ぎたころから、週末市営体育館等で少し汗を流すことを始めた。はじめは「トレッドミル」に乗って10分も走っていられなかった。ランニングはサッカー少年団時代の“特別メニュー”と称される走り込みがトラウマで、大の苦手であった。汗を流すことで爽快感を得ることができたからだろうか、しばらくつづき習慣化されたようであった。

3年前（51歳時）、当別スウェーデンマラソン（愛称Qちゃん・高橋尚子さんが一緒に走ってくれます。）に初エントリーした。自宅はマンションで人により「エレベータートーク」を交わす。北海道マラソン（8月末）の頃になると、マンション内にもマラソン愛好者がいるよ



写真－1（北海道マラソン2025完走）

うで、ランニング姿の方を見かける機会があり、練習コースやエントリーしている大会について教えてもらうこともあった。中でも「古希」を過ぎたと思われる「おばちゃん」は、北海道マラソンボランティアスタッフをしているとのことで「あんたも出ているのかい？」の問いに「いつか」と返したものだ。

「いつかはこないよ、すぐに始めなさい。」それまではなんとなく体調管理としてランニングをしていた。その言葉をきっかけとできたのは何故かわからないが、徐々に準備を始め、直前には月間100～150kmを走りこみ、令和6年千歳JAL国際マラソンにフルマラソンとして初エントリーで初完走できた。

上手くいった要因を振り返ると、周りのペースではなく、自分が苦しくないペースを丁寧に探った「自分自身との対話であった」。特に『30kmの壁』が訪れることのないように。10年ゆるく続けていたことで、長い距離を走ることができるようになっていた。

5. おわりに

タイトルを「諸行無常」としました。『平家物語』の冒頭「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」が印象的です。中学生の時に「暗唱」したことでも記憶にある言葉でもあります。この執筆の中で“ものひかなさ”を意図したのではなく、“わたしのなかでの経年変化”です。私自身に起こったささやかな変化をつづってみました。続けることで“良い”とおもえる変化につながる。ベテラン技術者として伝えておきたいと思います。お世話になった方々には、もう広報誌をみるできない方々おります。この場を借りて「お元気ですか～私は元気です。（映画；中山美穂主演『love letter』風に）」と感謝したい。そして息子よ！時には立ち止まって考える日もあるだろう、ただ自分のペースで歩みを続けてみようじゃないか。